



A

The まち人 Machibito 地域に生きる file 006

全ての人が自分らしく、人生を歩む世界であって欲しい

NPO法人 ゆどうふ

理事長 辻岡 秀夫さん



NPO法人 ゆどうふ 東京都町田市鶴川2-19-14 TEL 042-860-2790 http://yudofu.or.jp

The Machibito — Chikiri Ikiru

ひきこもりが社会的な問題と なっている。さまざまな理由で傷 つき、孤立し、辛い思いをしている 人が踏み出す『はじめの一步』は本 当に勇気がいる。そんな一歩に寄り 添い、その人らしさが実現するきつ かけ作りを手伝うことができた。

— そんな想いで、ひきこもり状態 の若者やその家族に対する支援、 また音楽活動を通して自己表現の 場の提供を行っている団体が 『NPO法人 ゆどうふ』だ。

辻 岡さんは、杉並区の事業所に 勤務する臨床心理士だった。

昨年の3月にNPO法人を立ち上 げ、現在は理事長としてひきこも り支援事業と音楽事業、2本の柱 で活動している。現在スタッフは7 名、会員は30名程だ。『ゆどうふ』 というネーミングには「温かい鍋

の中で、それぞれの個性が発揮さ れるような場でありたい」という 願いをこめている。

大 学時代からバンド活動をやっ ていた。「実は大学の卒論の テーマが『路上ライブ』でした。

路上ライブって演者と観客の線引 きがないと言うか、あの一体感の ある雰囲気はたまらなく好きで。」 そう語る辻岡さんは、バンド活動 をしていた時、もの凄く才能があ るのに人前で演奏するのが苦手な 人がいることに気が付いたという。 それがきっかけで、そういった人た ちに演奏の場を提供する活動を始 めたのが2004年。5年目くら いには福祉施設から演奏を依頼さ れるようにもなった。

『私たちの音楽支援活動には 『君の声が誰かに届く』というコ

ンセプトがあって、このコピーに は勇気を振り絞って誰かに想いを 伝えてほしいと同時に、自分はこ んなことが出来るんだという自己 発見をしてくれたら、という想い が込められています。10年間この 活動を続けてきましたが、ライブ に出て良かった、自信が付いた、 という声も沢山聞きました。」

そんな活動を10年間、仕事がオ フの毎週土日にずっと続けてきた が、ライブ直前に突然練習に來な くなったり、音信不通になったり する人が現れた。病院で診療に來 られなくなる患者と同じだった。 そういう人こそ重症で、ケアが必 要なはずだ。病院と音楽の現場、 2つの現場から『ひきこもり』の 存在に注目し始めた。音楽だけで 繋げられない人に、もっと繋がる 場を作るう、臨床心理士の仕事 と、10年間の音楽活動の中で浮か び上がってきた『ひきこもり』と いう同じテーマに、これこそ自分 のライフワークだと確信した。

現 在行っているひきこもり支 援事業は、主にフリースペー ス運営と当事者、家族に対する カウンセリング、対外交流、ボラ

ンティアなど社会参加の場の提 供、そして他の就労支援機関への 橋渡しとなる基礎支援だ。

もう一つの柱である音楽事業 は、勇気が足りなくて人前で演奏 できない人の活動を、これまで通 り後からサポートしている。こ の2つの活動には共通点もあり、 ひきこもりの相談に來た人がライ ブの手伝いをしたり、ライブを聞 きに行くことで社会復帰するきつ かけとなったこともある。

ひきこもり支援活動の方は正 直、金銭的には厳しいのが現実だ という。しかし、そんな状況下で も前を向き、決して諦めることは ない。

ひ きこもりや生きづらさを抱 えている若者の増加は、こ の時代に生きる人皆に共通した 現象であると同時に課題でもあ る。「僕はジョンレノンの『人生 は短い、友よ、争っている暇はな い』という言葉が大好きなんです。 縁あって同時代に生を受けた同志 が皆自分らしく人生を歩む世界で あってほしい、そう思っている活動 を続けていきたい。」辻岡さんの高 い志は、きっと大勢の人に生きる 力を与えてくれるに違いない。

B. 他グループと合同で行った秋の音楽祭 C. 福祉施設での演奏。町田で行ったこともある D. 2004年から継続しているゆどうふライブ



B



C



D